

平成 31 年 3 月 31 日

宮崎リハビリテーション学院

平成 30 年度 自己評価アンケート 結果報告

<調査対象者>

- 全教員 7 名

回収率 100% (7/7 名)

<調査時期>

- 平成 31 年 3 月 4 日～15 日

<結果内容>

- 各評価項目の達成状況
- 各評価項目の課題及び今後の改善方策

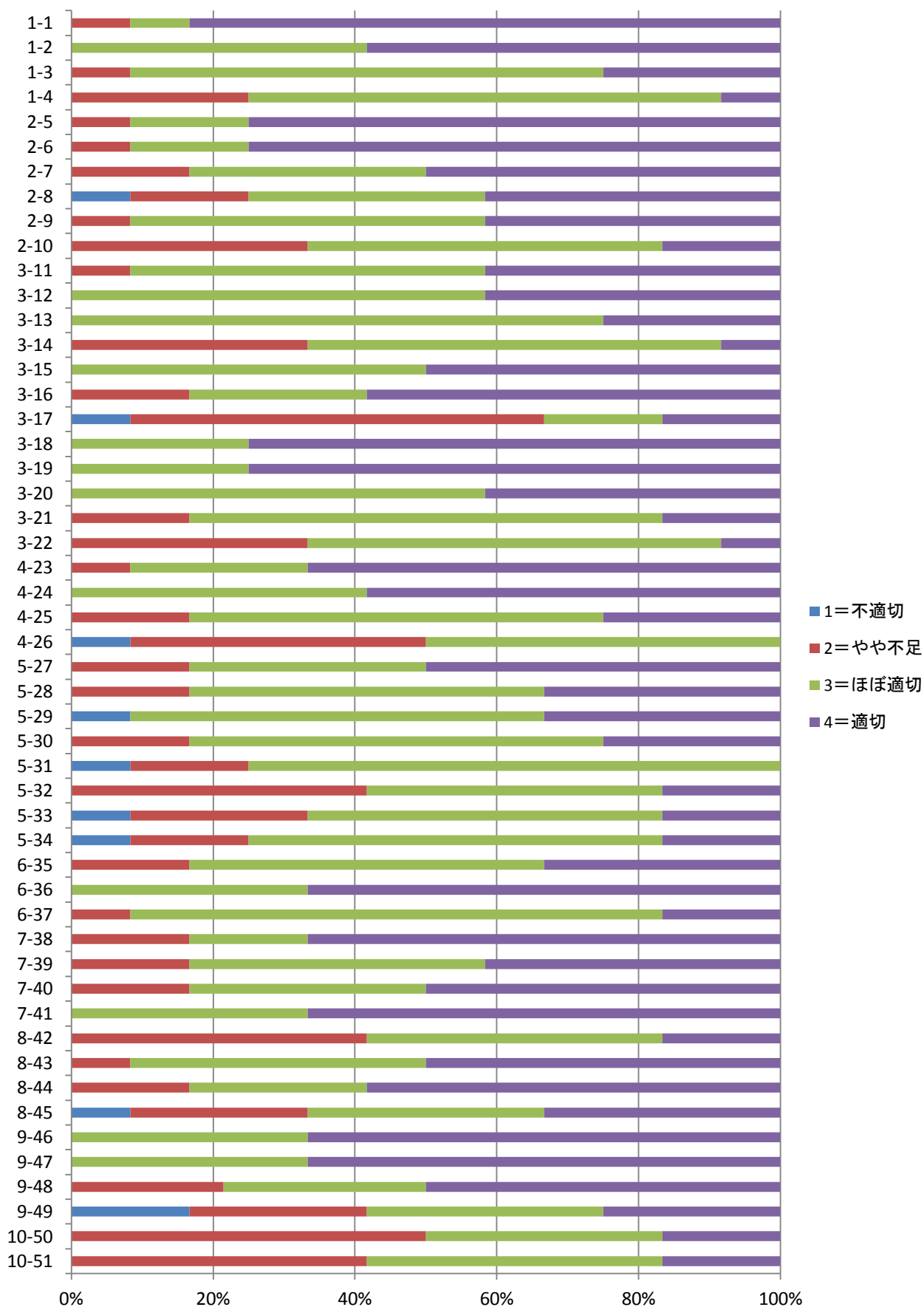
【自己評価アンケート結果;各評価の達成及び取組状況】

- | | | |
|------------------|---------|---------------|
| 1. 教育理念・目的・人材育成等 | 5. 学生支援 | 9. 法令等の遵守 |
| 2. 学院運営 | 6. 教育環境 | 10. 社会貢献・地域貢献 |
| 3. 教育活動 | 7. 学生募集 | |
| 4. 学修成果 | 8. 財務 | |

1=不適切 2=やや不足 3=ほぼ適切 4=適切

No.	質問	評価 平均値	件数(合計12)				比率			
			1	2	3	4	1	2	3	4
1	1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3.8	0	1	1	10	0.0%	8.3%	8.3%	83.3%
	2 学院における職業教育の特色が明確にされているか	3.6	0	0	5	7	0.0%	0.0%	41.7%	58.3%
	3 社会のニーズ等を踏まえた学院の将来構想を抱えているか	3.2	0	1	8	3	0.0%	8.3%	66.7%	25.0%
	4 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等を学生・関係業界・保護者等に周知されているか	2.8	0	3	8	1	0.0%	25.0%	66.7%	8.3%
2	5 目的等に沿った運営方針は定められているか	3.7	0	1	2	9	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%
	6 運営方針に沿った事業計画は定められているか	3.7	0	1	2	9	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%
	7 運営組織や意思決定機能規則等において明確化され、有効に機能しているか	3.3	0	2	4	6	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%
	8 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3.1	1	2	4	5	8.3%	16.7%	33.3%	41.7%
3	9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.3	0	1	6	5	0.0%	8.3%	50.0%	41.7%
	10 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	2.8	0	4	6	2	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%
	11 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.3	0	1	6	5	0.0%	8.3%	50.0%	41.7%
	12 カリキュラムは、体系的に編成されているか	3.4	0	0	7	5	0.0%	0.0%	58.3%	41.7%
	13 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が行われているか	3.3	0	0	9	3	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%
	14 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラム作成・見直し等がおこなわれているか	2.8	0	4	7	1	0.0%	33.3%	58.3%	8.3%
	15 関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3.5	0	0	6	6	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	16 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.4	0	2	3	7	0.0%	16.7%	25.0%	58.3%
	17 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.4	1	7	2	2	8.3%	58.3%	16.7%	16.7%
	18 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.8	0	0	3	9	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
4	19 資格取得(国家試験合格)の指導体制はあるか	3.8	0	0	3	9	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
	20 教育目標に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.4	0	0	7	5	0.0%	0.0%	58.3%	41.7%
	21 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組みが行われているか	3.0	0	2	8	2	0.0%	16.7%	66.7%	16.7%
	22 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.8	0	4	7	1	0.0%	33.3%	58.3%	8.3%
	23 就職率の向上が図られているか	3.6	0	1	3	8	0.0%	8.3%	25.0%	66.7%
	24 資格取得率(国家試験合格率)の向上が図られているか	3.6	0	0	5	7	0.0%	0.0%	41.7%	58.3%
5	25 退学率の低減が図られているか	3.1	0	2	7	3	0.0%	16.7%	58.3%	25.0%
	26 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.4	1	5	6	0	8.3%	41.7%	50.0%	0.0%
	27 就職・進路指導に関する体制は整備されているか	3.3	0	2	4	6	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%
	28 学生相談に関する体制は整備されているか	3.2	0	2	6	4	0.0%	16.7%	50.0%	33.3%
	29 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備されているか	3.2	1	0	7	4	8.3%	0.0%	58.3%	33.3%
	30 学生の健康管理を担う組織体制があるか	3.1	0	2	7	3	0.0%	16.7%	58.3%	25.0%
	31 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.7	1	2	9	0	8.3%	16.7%	75.0%	0.0%
	32 学生の家族と適切に連携しているか	2.8	0	5	5	2	0.0%	41.7%	41.7%	16.7%
6	33 卒業生への支援体制はあるか	2.8	1	3	6	2	8.3%	25.0%	50.0%	16.7%
	34 高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	2.8	1	2	7	2	8.3%	16.7%	58.3%	16.7%
	35 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.2	0	2	6	4	0.0%	16.7%	50.0%	33.3%
	36 学外実習、研修等については、十分な教育体制を整備しているか	3.7	0	0	4	8	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
	37 防災に対する体制は整備されているか	3.1	0	1	9	2	0.0%	8.3%	75.0%	16.7%
7	38 学生募集活動は、適正に行われているか	3.5	0	2	2	8	0.0%	16.7%	16.7%	66.7%
	39 学生募集活動に於いて、教育成果は正確に伝えられているか	3.3	0	2	5	5	0.0%	16.7%	41.7%	41.7%
	40 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.3	0	2	4	6	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%
	41 学納金は妥当なものとなっているか	3.7	0	0	4	8	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
8	42 中長期的に学院の財務基盤は安定しているといえるか	2.8	0	5	5	2	0.0%	41.7%	41.7%	16.7%
	43 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.4	0	1	5	6	0.0%	8.3%	41.7%	50.0%
	44 財務について会計監査が適正に行われているか	3.4	0	2	3	7	0.0%	16.7%	25.0%	58.3%
	45 財務情報公開の体制整備はできているか	2.9	1	3	4	4	8.3%	25.0%	33.3%	33.3%
	46 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.7	0	0	4	8	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
9	47 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7	0	0	4	8	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
	48 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.5	0	1	4	7	0.0%	21.4%	28.6%	50.0%
	49 自己点検・自己評価結果の公開はしているか	2.7	2	3	4	3	16.7%	25.0%	33.3%	25.0%
10	50 学院の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2.7	0	6	4	2	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%
	51 学生のボランティア活動を奨励し、支援しているか	2.8	0	5	5	2	0.0%	41.7%	41.7%	16.7%

集計結果（比率グラフ化）



【自己評価アンケート結果;課題及び今後の改善方策】

1 教育理念・目的・人材育成等

①課題

- ・カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは近日中にホームページや学院パンフレットに公開予定である。
- ・理学療法学科の受験者・入学者減において対策を行っておくことが必要。また将来の構想として4年制移行などの検討・準備等が必要。
- ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等を学生・関係業界・保護者等に周知に関してはポリシーの記載で具体的に示されていくと思います。また、学校生活に関しては保護者との認識の違いがみられるように思います。
- ・学生、保護者に対してわかりやすいとは言えない。周知においてもスマホ対応でなく、HP自体も見にくい。
- ・概ね、適切な教育ができていると感じているが、強いて言えば保護者との関係性を検討する段階にある様な印象を受け
- ・学院のポリシーは完成しているが、将来構想までは考えられていない。

②今後の改善方策

- ・ポリシーをさらに周知するための方法を検討しなければいけない。
- ・1. 積極的な広報活動(高校訪問)
2. オープンキャンパス時などの個別相談
3. 国家試験不合格者に対するフォローの見直し
4. 広報の見直し
5. 業界ニーズの把握・情報収集
6. 保護者との関わり
- ・学校生活に関しては保護者との認識の違いがみられるように思います。そのため保護者会などの席を設けることや学院生活(特に留年や抗体検査に関して)について書類で郵送するなどの対応が必要かと思えます。
- ・一般の方にもわかりやすい表現にし、HPをリニューアルすることでアピール効果を高める。
- ・保護者との関わり合い、保護者の役割等を教務内で検討し、統一した関わりの中で学生・保護者・教務の関係性を再構築していく
- ・広報戦略も踏まえた理学療法教育の長・中期計画を検討する。

2 学院運営

①課題

- ・ 情報システム化の効率化は現在進行中である。
- ・ 運営方針の理解徹底を図り、職員が一丸となって取り組める体制づくりが必要。
- ・ 学生の自主性の限界を感じます。ご家族のご協力を得ることも必要かと思えます。
- ・ 業務内のシステムは効率化しているが、今後ICTに対応した課題は必要。
- ・ 徐々に業務の効率化は進んでいる。現状課題としてはFSの整理管理が必要。情報公開については不十分。
- ・ 概ね、健全な運営をしている印象。受験者数を増やすような努力をしなければならない。
- ・ 現状に即した事業計画および実績などの情報公開が不十分である。

②今後の改善方策

- ・ 教員間での情報の共有化など、さらに業務の効率化を検討していかなければいけない。
- ・ 事業計画にもとづいた担当による年間事業計画を作成し、承認を受け、全体会議で周知することも必要。
- ・ HPなどに学事歴やテスト予定など、保護者の方がみられるようにしても良いかと思えます。
- ・ グーグルクラスルーム等の活用方法の検討。
ホームページの在学生向けページがほとんど活用されていない。
- ・ FSのルールを整備し効率化を図る。
制度に合わせ策定した情報に関しては随時公開していく。
- ・ 情報公開の効率化、広報活動の拡大等。
- ・ ホームページなどの再検討を行い、適切な情報公開を行う。

3 教育活動

①課題

- ・ 教員間の授業評価、外部関係者からの評価は現在検討し、進行中である。
- ・ 進級・卒業判定に関して基準の変更などもあったが、学生への周知はどのように実施するのか。
- ・ 資質向上のための取り組みに関しては、組織的ではなく個人的な取り組みとなっている部分も多い。
- ・ カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムツリーを策定できたが、運用はこれからである。実習を通して実習施設との連携はあるが、教育編成委員会、学校関係者委員会を設置されていない。教員の能力開発においては全体的な取り組みは少なく、個人へ依存している。
- ・ 現時点での教員の知識・技能等の習得はほぼ、各個人に委ねられている。研修会の企画、出張扱いでの研修会等への派遣等検討していく必要があると感じている。
- ・ 理学療法の現状に即した教育体制や知識の習得が十分とはいえない。

②今後の改善方策

- ・ 教員間の授業評価、外部関係者からの評価を進めていく。
- ・ 特に卒業判定に関しては、原則として全国平均点以上を合格とする旨を伝えても良いかと思えます。
- ・ 教育編成委員会、学校関係者委員会を設置し、学校運営、教育へ意見を取り入れる体制を作る。教育開発委員会を設置したことにより教員の能力開発につながる取り組みを継続して実施する。
- ・ 専門性を担保する定期的な研修への参加と臨床経験の拡充を検討する。

4 学修成果

①課題

- ・ 卒業生の活躍の把握は一部把握している。
- ・ ①4-25 気になる学生には早期より保護者連絡の必要性を感じている。
- ・ ②4-26 卒業生など距離や時間などの問題からフォローアドバイスは十分に出来ているとは言い難い。
- ・ 退学率の低減が図られているかに関しては個人の問題があるため、判断が難しい。
卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握は、自分自身はほとんどできていない状況です。
- ・ 卒業生に関しては、学院側からの積極的な働きかけはない。
- ・ 1年次の退学率が増加した。卒業生の情報収集が行えていない。
- ・ 留年・退学者率の抑制対策が十分とはいえない。卒業生の就業情報を追跡できていない。

②今後の 改善方策

- ・ 今後は卒業生のネットワーク構築を形成し、活躍を把握できるシステム作りを進めていく。
- ・ ①問題のある学生に対しての教員の情報提供。早めの保護者への対応を心掛けていく。
- ・ ②検討課題
- ・ 高校生向けにも、出身校別で卒後の状況報告などをまとめてみても良いか。
- ・ リメディアル教育だけでなく、社会活動などを通して意欲を高める取り組みを行う。
- ・ 成績不振者の学習サポート体制を拡充する。
卒業生の定期的な就業状況調査を実施する。

5 学生支援

①課題

- ・ 高校と連携して職業体験授業などを実施しているが、県内全ての高校には実施できていない。
- ・ 身体の健康管理以外に精神面に起因する体調不良者も見受けられるため、教務または専門的な心理カウンセラーの必要を感じる。
- ・ 学生の家族との認識の違いがあるように感じます。
- ・ 女性教員が少ない為、相談など女子学生対応の負担が大きい。
心理的な疾患が疑われる学生に対する相談に関しては、教員では対応できない部分もある。
家族への連絡は不十分。
- ・ 学生相談についての体制づくりは行えていない。学生の家族との連携は不十分。卒業生への積極的支援は行っていない。高校との連携は図れていない。
- ・ 現状では、就職・進路に関することは、学生主体。学院自体は関わっていないスタンスだが、今後は学院として何らかの形で携わっていくべきだと感じた。
- ・ 家族への情報提供や卒業後の支援について、具体的な対策がない。

②今後の改善方策

- ・ 学院側からもさらに積極的に高校側へアピールをして、職業体験授業を実施していく。
- ・ 情報提供や個別面談による対応の徹底化。心理カウンセラーは検討課題。
- ・ 前述した保護者説明会などの必要があるかと思えます。
- ・ カウンセラー等に相談できる環境も必要。
一斉メールなどの活用。
- ・ 学生相談窓口の設置。家族との連携について時期、内容を検討する。キャリア教育・職業教育イベントへの参加は積極的に行っているが、個別の高校訪問を通してPT、当学院の特色を打ち出し高校側へPT、教育方針の理解を得る。
- ・ 家族や卒業生に対する定期的な情報発信の方法の検討を行う。

6 教育環境

①課題

- ・ 防災訓練の内容は適宜見直しが必要である。
- ・ 現在、特に問題ないが設備等の老朽化が認められる機材等あり。
- ・ 施設・設備に関しては使用していないものもありますが、特にPCに関しては学生がもっと利用しやすい環境づくり(整備)が必要かと思えます。
- ・ 冷・暖房に関して、快適な学習環境提供の為運用方法などの検討が必要。
- ・ 指定規則改定後の臨床実習施設、指導者の確保。
- ・ 概ね良好な印象。
- ・ 防災体制および教育訓練が十分とはいえない。

②今後の改善方策

- ・ 防災訓練の内容の見直しを進めていく。
- ・ 今後、見直しが必要である。
- ・ OA室の環境の整備。学生の発表などで使用可能か状態にしていくことが必要かと思えます。
- ・ 外気温に合わせ、設定を変えるなどの柔軟な対応も必要。
- ・ 県内養成施設、PT協会、県士会、学校協会と連携して指導者の育成確保を行う。
- ・ 防災教育と教育訓練の拡充を検討する。

7 学生募集

①課題

- ・ 学生募集は、進路ガイダンスや高校訪問、学院ホームページ公表などで活動しているが、さらに他の方策も検討して、多くの高校生に周知されなければならない。
- ・ 学校名、職業名称などは地域に浸透したが、専門性を十分に理解しないまま入学してくる学生もいる。□
- ・ 募集活動自体は適正に行われているが効果的とは言えない。
- ・ 広報活動の拡大が必要な印象あり。
- ・ 幅広い広報活動を実現するための予算が必要である。

②今後の改善方策

- ・ 学生募集の活動方法の検討が必要。
- ・ 様々な媒体を通し細やかな情報提供をしていくことが今後の課題。
- ・ データをもとにした効果的な広報活動と対象者に合わせた企画が必要。
- ・ 広報活動の選択と集中を進め、限られた予算の範囲でIT環境を踏まえた方法の在り方を再検討する。

8 財務

①課題

- ・ 情報公開は実施されていない。
- ・ 学生数の減少のため財務基盤は安定しているとは言えない。
- ・ 財務の情報は現在適切に公開されていない。

②今後の 改善方策

- ・ 戦略に基づいた広報戦略の展開と進級率、国家試験合格率といった安定した学業成績を担保する。
- ・ 公開に必要な情報を精査し、ホームページなどで公開するなど方法を検討する。

9 法令等の遵守

①課題

- ・ 情報公開に関しては、今後の課題。
- ・ 自己点検・自己評価結果の公開は行っていない
- ・ 必要な情報は、HP等で公開しなければならない。
- ・ 自己点検・評価についての情報公開が十分とはいえない。

②今後の 改善方策

- ・ ホームページの活用。
- ・ 自己点検・自己評価結果の公開を行う
- ・ 公開に必要な情報を精査し、ホームページなどで公開するなど方法を検討する。

10 社会貢献・地域貢献

①課題

- ・ 学生ボランティアの紹介し、支援を行っているが、学院としてさらに継続した支援が必要である。
- ・ ボランティア活動を奨励はしているが、主だった支援はなされていない。
- ・ ボランティア活動に対しては、実施状況の把握等が実施されていない。
- ・ 職能団体等への施設の貸し出しを行っている程度である。学生へボランティア活動について推奨、案内を行うが声掛けに留まっている。
- ・ 学院の教育資源や、施設を活用していく。
- ・ 地域との交流や施設の開放などの検討が必要である。

②今後の 改善方策

- ・ 継続したボランティアの支援を進めていく。
- ・ 今後、検討課題。
- ・ 学生ボランティアの募集の実施と管理は実施しています。
- ・ 各ボランティア活動に関する情報の集約も必要。
- ・ 2019年度より介護予防事業への参画する。学生ボランティアについて一部カリキュラムへの読み替えなどを検討す
- ズ
- ・ 専門サービス型介護予防促進事業の開始。
- ・ 施設開放や社会事業としての活用方法を検討する。